

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)
成果報告書

実施機関名 (大阪市教育委員会)

1. テーマ

小学校低学年や中学年において体験的な活動や繰り返し学習を重視し、国語と算数において学習上のつまずくポイントを明らかにし、効果的な教科指導の方向性について研究する。

2. 問題意識・提案背景

本市では、平成26年3月、授業のユニバーサルデザイン化を意識した「特別支援教育の視点を取り入れた校内・教室の環境づくり」のパンフレットを作成・配付するなど、ユニバーサルデザイン教育を意識した取組を進めてきた。

しかし、各教科の授業には、ユニバーサルデザイン化された授業や誰もが「わかる・できる」といった授業の実践や研究は始まったばかりである。

本市の「全国学力・学習状況調査」で、小学校においては、B問題における「読むこと・話すこと」に関して全国との差がある。小学校低学年段階での読むこと、聞くことに対するつまずきが、改善されることのない状況であり、平均正答率の低さに影響している可能性がある。学力向上のためには、言語活動の基礎・基本となるひらがな、カタカナを読み書きできる力が備わっている必要があるとともに、数概念や基礎計算能力の向上が、国語科、算数科のみでなく、他教科の理解にも肯定的な影響を与えられると考えられる。

3. 目的・目標

国語では、長音、拗音、促音、撥音の特殊音節が表記、読むことができること、文字に関する事項として基礎的なひらがな、カタカナの習得をめざし取り組んだ。算数では、数概念の理解（大小を比較できること、数の配列を理解していること）、基礎的な計算を正確かつスムーズに解くことを低学年、中学年において徹底的に繰り返し学習することによって、定着をはかった。

国語、算数とも、スクリーニングテストとプログレスモニタリングテストの簡易検査を使用し、学習効果を測定する指標とした。

また、検査実施後、通常学級を中心とした一斉指導を行い、学習効果について検証し、必要な児童には集中して支援を提供する等指導方法、指導時間、指導体制などを学校全体として体系的にモデル事例として実践できるようにしていく。

4. 主な成果

国語 大阪市立東淡路小学校

1年生→2学級 2年生→2学級で取組を行った

平成29年 6月に 1回目「聴写テスト」実施

平成29年 12月に 2回目「聴写テスト」実施

結果

ひらがな10単語聴写テスト 事前・事後テストの比較（平成29年）

1年1組 6月実施 (27人)

得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	0	0	0	1	1	0	6	3	1	3	12
小計	2						9		16		

1年1組 12月実施 (26人：欠1)

得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	19
小計	0						0		26		

1年1組では、「0～5点」の集中的な支援の必要な対象群の児童が2名から0名と減少した。「8～10点」の層が16名から26名と10名増加した。

カタカナ10単語聴写テスト 事前・事後テストの比較（平成29年）

2年2組 6月実施 (28人：欠0)

得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	1	2	1	0	1	0	3	5	9	2	4
小計	5						8		15		

2年2組 12月実施 (26人：欠1)

得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	1	0	0	1	0	1	2	1	5	7	9
小計	3						3		21		

2年2組のカタカナでは、「0～5点」の集中的な支援の必要な対象群の児童が5名から3名と減少した。「8～10点」の層中でも「10点」を獲得した児童が増加した。

個別にみると「2点⇒9点」に、「4点⇒10点」に成績が伸びた児童も現れた。

算数 大阪市立すみれ小学校

1年生→3学級 4年生→3学級で取組を行った。

平成29年 5月 「算数チャレンジ」テスト実施

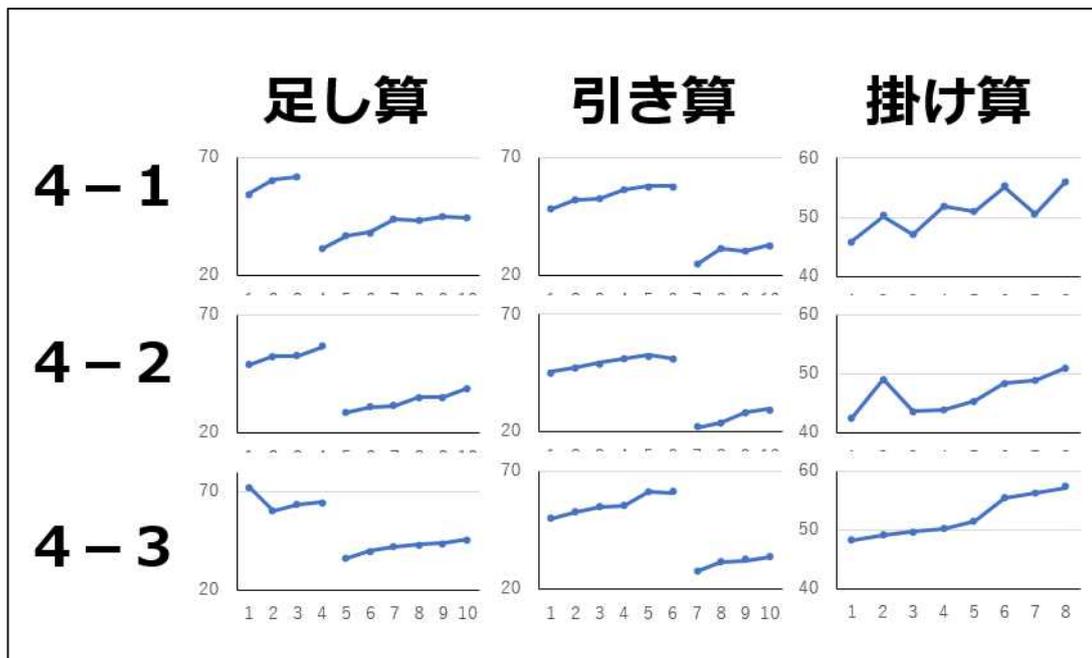
平成29年12月 「算数チャレンジ」テスト実施

結果

対象：4年生 3学級

- 期間：平成29年11月～12月
- 頻度：週に2回 1回につき 2枚 実施
- 方法：プリント配付 → 実施 →
児童の自己採点 → ファイルに記録し、綴じる

学級の平均値や個別の点数について、グラフ化したところ、3学級とも学級平均が上昇した。



5. 取組内容

- ① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

ア 大阪市立東淡路小学校

★1. 教科名

国語

★2. 対象とした学校、学年

小学校1年生・2年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・特殊音節の省略や転移。
「かけっこ」→「かけこ」「きゅうり」→「きゅり」
- ・濁点・半濁点の省略。
「ペンギン」→「ペンギん」「きつぷ」→「きつぷい」
- ・表記ルールの誤り。
「メガね」「きゅーり」
- ・拗音の小文字の置換。
「しゅくだい」→「しょくだい」「きゅうり」→「きょうり」

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

ひらがな・カタカナ10単語聴写テスト

(神戸親和女子大学 森田安徳先生)

① 実態把握の時期：

6月・12月

② 実態把握の方法（実施者・方法）：

学級担任が実施。使用時間10分。
10単語の聴写テストを行う。1年生はひらがな、2年生はカタカナで教員が読みあげる言葉を聞いて書きとる。わからない文字がある場合は「○」を文字の代わりに書く。
テスト終了後一覧に誤答を書き出し、つまずきを把握する。

ひらがな単語									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
しょうぼうしや	しよつき	きゅうり	しゅくだい	おとうさん	ふうせん	かけっこ	きつぷ	ペンギン	メガね

カタカナ単語									
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
リュックサック	ソーセイジ	チューリップ	サッカー	バジャマ	コロツケ	ペンギン	ミシン	ダンス	キツネ

★5. 実施した指導内容

① 学習上においてつまずいている内容

- ・特殊音節の省略や転移。
- ・濁点・半濁点の省略。
- ・表記ルールの誤り。
- ・拗音の小文字の置換。

② つまずいている背景・原因

- ・音の操作が難しい

- 文字と音の変換
- 字形がうまく取れない
- 文字の区別と記憶が難しい。
- ③ ①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））
- 特殊音節を動作化する・・・音を視覚化する
長音は 手を合わせてのばす
促音は 手を上にあげる
- 拗音は のばした時に「あ」になる →「Oゃ」
のばした時に「う」になる →「Oゅ」
のばした時に「お」になる →「Oょ」.
- しりとり遊び・・・音楽の時間にリズムに合わせて実施
単語を意識
- のばす音みつけ・・・カタカナののばす音をクラス全員が1個ずつ見つけていく、クラス全体で実施する
- 促音のみのピンゴゲーム
- 自主学習プリント・・・個別指導実施

④ ③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ゲーム性を持たせたことにより児童は意欲的に、特殊音節の学習に取り組んだ。
- 特殊音節の間違いが減少した。
- 更なる課題が明らかになった。

⑤ 効果がある具体的な指導方法

- 特殊音節の視覚化
- 特殊音節の動作化
- 毎日書く連絡帳の内容をカタカナで書く
- 特殊音節の言葉集めゲーム
- リズムに合わせてしりとり

★6 まとめ

① 教科における学習上のつまずくポイント

- 特殊音節の省略や転移。
「かけっこ」→「かけこ」「きゅうり」→「きゅり」
- 濁点・半濁点の省略。
「ぺんぎん」→「ぺんきん」「きつぷ」→「きつぷ」
- 表記ルールの誤り。
「メガね」「きゅーり」
- 拗音の小文字の置換。
「しゅくだい」→「しょくだい」「きゅうり」→「きょうり」

② つまずくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- 特殊音節の視覚化
- 特殊音節の動作化

- ・毎日書く連絡帳の内容をカタカナで書く
- ・特殊音節の言葉集めゲーム
- ・リズムに合わせてしりとり

1) 事前につまずかないようにするための指導の工夫・内容

ひらがな・カタれんらくカナ10単語聴写テストにて、つまずいている児童や学級につまずきの傾向を把握する。

2) 通常の学級の授業における有用な指導方策

ひらがな・カタれんらくカナ10単語聴写テスト

★7 その他

① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

平成29年5月8日	かな10単語聴写テストについて校内研修
平成29年5月22日	スケジュールの確認
平成29年6月20日	かな10単語聴写テストの活用について
平成29年7月11日	担当学年・特別支援学級担任と打合わせ
平成29年10月5日	授業参観 指導法検討
平成29年10月12日	授業参観 指導法検討
平成29年10月25日	学校長、担当者、アドバイザー打合わせ
平成29年11月2日	学校長、担当者、アドバイザー打合わせ
平成29年12月12日	授業参観 指導法検討
平成29年12月18日	授業参観 指導法検討
平成29年12月25日	学校長、担当者、発表打合せ
平成30年1月27日	中間発表（大阪市教育センターフォーラム）
平成30年2月19日	学校長、担当者、アドバイザー打合わせ
平成30年3月6日	アドバイザーとの打合せ
平成30年3月20日	学校長との打合せ

② 本事業の月別の実施主な実施内容

平成29年4月	管理職と指導主事との打合わせ
平成29年5月	年間計画確認
平成29年6月	校内研修
平成29年7月	聴写テスト実施
平成29年8月	夏休の宿題での課題
平成29年9月	聴写テストの結果分析
平成29年10月	学習方法検討
平成29年11月	指導法実践
平成29年12月	聴写テスト実施
平成30年1月	中間発表（大阪市教育センターフォーラム）
平成30年2月	担当教諭からの聞き取り
平成30年3月	次年度に向けた打合せ

イ 大阪市立すみれ小学校

★1. 教科名

算数

★2. 対象とした学校、学年

小学校1年生・4年生

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

たしざん (くりあがりなし・あり)

ひきざん (くりさがりなし・あり)

かけざん (九九)

わりざん (九九)

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

さんすうチャレンジテスト

(大阪教育大学 野田航先生)

「さんすうチャレンジ」は①数字の大小、②数列理解、③計算の3つの課題から構成されている。各課題は1分でできる簡易検査である。

① 実態把握の時期：

7月・12月・2月

② 実態把握の方法（実施者・方法）：

学級担任が実施。

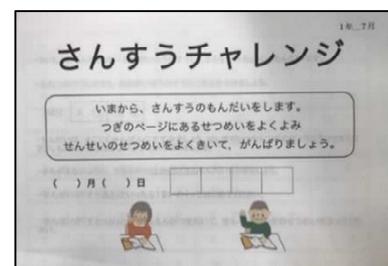
(1年) 1枚につき1分 計4分

たしざん、ひきざん、数の大小、数列

(4年) 1枚につき1分 計7分

たしざん、ひきざん、かけざん、わりざん、

混合問題、数の大小、数列



9-6=	3×7=	9÷1=	4+4=
7+0=	12-9=	7×7=	4×1=
6÷2=	1×7=	12÷4=	1×8=
8-3=	7-4=	9÷3=	4×4=

チャレンジテスト実施結果のまとめ方

1分間テストにおける正当数 (流暢性)

関西圏公立小学校2100名の

データをもとに基準値を設定

- 要支援・・・下位10%未満 (赤)
- 気になる・・・下位10%以上25%未満(黄)
- 問題なし・・・下位25%以上 (緑)

★5. 実施した指導内容

1) 学習上においてつまずいている内容

- 計算ができない
- くり上がり、くりさがりができない
- 数の大小がわからない
- 九九ができない

2) つまずいている背景・原因

- 計算することが苦手
- 推論することが苦手
- 計算の基礎的スキルの不足

3) 1) に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

- 計算の基礎スキルの流暢性を向上させる
1桁の計算に素早く答える
1週間に 2日 各2枚 「さんすうチャレンジ」実施

4) 3) の結果（児童生徒の変容を含む）

- 1分間の正答数の増加
- 計算スピードの向上

5) 効果がある具体的な指導法

「さんすうチャレンジ」

★6 まとめ

① 教科における学習上のつまずくポイント

- 計算ができない
- くり上がり、くりさがりができない
- 数の大小がわからない
- 九九ができない

② つまずくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- 1) 事前につまずかないようにするための指導の工夫・内容
「さんすうチャレンジ」にてつまずいている児童の把握
- 2) 通常の学級の授業における有用な指導方策
「さんすうチャレンジ」

★7 その他

① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- | | |
|-------------|-------------------|
| 平成29年4月20日 | 学校長、担当者、アドバイザー打合せ |
| 平成29年5月23日 | 学校長、担当者、アドバイザー打合せ |
| 平成29年8月31日 | 校内研修 |
| 平成29年10月17日 | 学校長、担当者、打合せ |

平成29年10月19日 授業参観
 平成29年11月17日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成29年12月1日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成29年12月7日 担当者打合せ
 平成29年12月22日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年1月27日 中間発表（大阪市教育センターフォーラム）
 平成30年2月2日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年2月9日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年2月16日 学校長、担当者、アドバイザー打合せ
 平成30年3月20日 平成29年度のまとめ 研修

② 本事業の月別の実施主な実施内容

4月 管理職と指導主事との打合わせ
 5月 年間計画確認
 6月 校内研修
 7月 さんすうチャレンジ 実施
 8月 校内研修
 11月 指導法実践 ～2月
 12月 さんすうチャレンジ 実施
 3月 さんすうチャレンジ 実施
 3月 まとめ研修

6. 今後の課題と対応

課題

（国語）

- 指導法の検討、周知
- 個別指導の体制と時間の確保 → 次年度 実施予定
- 課題のある児童への個別指導法の検討 → 次年度 実施予定
- 漢字の読字、書字に課題がある児童への対応 → 次年度 実施予定
- テスト結果の分析時間の確保
- 他校でも汎化できるように、かな10単語聴写テスト実施手順書の作成

（算数）

- 個別指導の体制と時間の確保 → 次年度 実施予定
- 課題のある児童への個別指導法の検討 → 次年度 実施予定
- 毎回のテストをICT化できないか 紙からタブレットへ →採点の自動化
→評価の自動化
- 他校でも汎化できるように、チャレンジテスト実施手順書の作成

7. 指定校について

(小学校)

平成 29 年度 5 月 1 日現在

指定校名：大阪市立東淡路小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	53	2	56	2	61	2	56	2	44	2	46	2
特別支援学級	1		3		5		2		2		3	
通級による指導 (対象者数)												
	校長	副校長 ・教頭	主任学級 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支 援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	0	17	1	0	4	1	1	0	0	26

※特別支援学級の対象としている障がい種： 聴覚障がい 知的障がい
自閉症・情緒障がい

(小学校)

指定校名：大阪市立すみれ小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	87	3	112	4	119	3	118	3	134	4	123	3
特別支援学級	6		4		10		6		7		8	
通級による指導 (対象者数)												
	校長	副校長 ・教頭	主任学級 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支 援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	0	26	1	1	8	2	1	0	0	41

※特別支援学級の対象としている障がい種：知的障がい、肢体不自由、病弱
自閉症・情緒障がい

8. 問い合わせ先

組織名：大阪市教育委員会事務局

- (1) 担当部署 指導部 インクルーシブ教育推進担当
- (2) 所在地 大阪市東淀川区東淡路 1-4-21
- (3) 電話番号 (06) 6327-1014
- (4) FAX 番号 (06) 6327-1023
- (5) メールアドレス ua0016@city.osaka.lg.jp